

お客さまこんにちは。お元氣ですか？

新型コロナウイルス禍による再々度の緊急事態宣言発出・延長を受け、全国新酒鑑評会の製造技術研究会も中止となり、前号でご案内した醸造機器・用品展示会も準備を進めておりましたが、誠に残念ながら、今年には開催することが叶いませんでした。捲土重来を期したいと存じますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年延期となったオリンピック・パラリンピック開催が残すところ2ヵ月余りとなりました。聖火リレーも全国各地を巡り、開催が間近に迫ってきていることを感じさせられます。東京オリンピック開催から57年、高度成長時代を経て昭和から平成、そして令和と時代は移り、大きく国内外の情勢は変化をしていますが、この平和の祭典にかけるアスリートたちの想いは変わることなく連綿と受け継がれ、私たちが感動させてくれます。今回の開催に関しては賛否両論あり、どちらの意見も絶対正しい、絶対間違っているとは言えないと思います。ただ開催を決めたからには国として新型コロナに向き合うかということと、個々人がいかにして感染しない、させないかという日常行動がセットでなければならぬと思います。もちろんこれはオリンピック開催に限ったことではありませんが・・・。

次にワクチン接種についてですが、医療従事者及び高齢者を対象としてようやく進んできました。しかし地方自治体によって予約の取り方や接種方法についてはまちまち、予約もネットや電話で非常に取れづらい状況で、私も両親の接種予約をするのに随分時間を取られました。諸々のシミュレーションは関係省庁で1年以上前から出来たはずではないかと思うのですが、どこまで地方自治体との連携が取れていたのかな？と思ってしまうました。またこのワクチンも外国頼みで果たして良いのかな？と。

開発可能な研究機関、大学、企業に対して国費を投入し、全力で国産ワクチン開発に取り組むことが出来ていたら違っていたのでは？

これに限らず、日本は諸外国への依存度が高すぎの傾向があると思います。一例ですが昨今ウッドショックが取りざたされています。アメリカや中国の住宅事情に大きく影響を受けて木材が高騰しているためだそうです。国土の約66%を森林が占めている、世界の中でも有数の森林国であるはずなのに、なぜそうなのか？それは林業に関わる人材の高齢化や人手不足、そして収入が非常に低いということが大きく影響を及ぼしているとのこと。このまま木材に限らず、様々な分野での国内自給率や技術力の底上げをする対策を講じないと、ちよつと国外で何か起きて供給不安が起こればすぐに足元が危うくなってしまうすよね。このような脆弱な国では諸外国を相手に堂々と渡り合うことは難しいと思いますので、是非とも自給率を上げて、元氣で強い日本になって欲しいと切に願います。

## 日本の野鳥シリーズ

### コルリはなに色



佐藤 弘

現代の画像処理技術はすばらしい。写真のコルリはデジカメ・パソコン・プリンターを経由して、なお実物そのものの色だ。

これをなに色と言うか専門書によれば和名の記述はなく、最高や極上を意味するシュプリーム(Supreme)とある。英国最高位ガーター勲章のリボンの色であり、邦画の傑作に贈られるブルー・リボン賞はこれにちなむという。なるほど品格を感じさせる。

これよりわずかに濃いロイヤル・ブルーのスーツを、高齢の女王陛下がさりげなく着こなす映像を見た記憶がある。

このオスは翼にこげ茶色が少し残るものの、既に繁殖能力がある一丁前の成鳥だ。伸び上がり尾を上げて格好をつけるのは、メスにプロポーズしているのかライバルと張り合っているのか。ここぞという場面で見栄を切る歌舞伎役者を思わせる。例によってメスの色は地味で、茂みの中で目立たず周りに溶け込む。

春の渡りには平地や低山で繁殖期は亜高山で、コルリの囀りはこれ迄に数知れず聞いたが、その姿を見た事がない。でも「講釈師見てきたようなことを言い」とはおっしゃらないで頂きたい。

標識調査で捕獲し、手にとって見るのだから。本種と同じ小形ツグミ類のルリビタキも同様だ。しかし、渡り途中のルリビの囀りは聞いた憶えがない。その背の青は青緑色に近い。

また、目立ちたがり屋のオオルリは、背面の羽毛の照りが日射しをはね返して体温上昇を防いでいる。その反射光はモルフォ蝶のようなメタリック・ブルーに輝き、人を鳥キチにする魔力がある。

要するに、瑠璃色は紫をおびた深い青であり、並々ならぬ気品を漂わせる。この雅な和の色がお似合いなのは、もちろん美智子さまと雅子さま。さすがの女王陛下も霞んでしまう。しかしこの色もいっそTシャツなら、そしてリゾートでなら、背すじを伸ばしさえすれば老若男女、誰でも見事にキマルと思う。我こそはと思うお方はお試しあれ。私、結果に責任とれないけれど…。

コルリの秋の渡りは何故か減っ茶早く、越冬地の東南アジア目指して旧盆過ぎ、まだ夏なのに新潟海岸を南下して行く。同類のコマドリが11月上旬までのんびり居残り「早く行かないと雪になるわよオー」と女性メンバーに促されているのと両極端だ。

コルリに托卵する悪玉ジュウイチはどうにも好きになれない。

## 今、はまっていることは？



総務部 主任 川勝 麻子

### ■【浅く広く楽しむ】

私が所持している名刺入れは2つ。1つは会社名刺入れ。もう1つは資格取得証明証入れ。後者は取得する講習や会場によって修了証が1つのカードにまとめられるのですが、学生のころから取得したものが入っているのでケースは結構パンパン。技能講習や赤十字救急法救急員等々、現職務では役に立つものはそんなに有りません(笑)

プライベートで取得した中にはお酒好きが高じて(?)ずいぶん前に取った新潟県清酒達人検定(“銅”ですけど)や醗酵検定、ワイン検定のブロンズ・シルバークラスがあります。

ワイン検定の時(コロナ前)は試験終了後、講師の方から軽いご馳走を頂いたのですが、お皿の上に苦手なカビチーズがあり、やんわり苦手だと伝えると「是非はちみつを掛けて食べてみて!」と言われ恐る恐る口へ・・・驚きです!カビ特有の味はちみつでまろやかになっているんです。鼻に抜けるカビ臭はあるものの、一瞬で苦手な物を克服です(笑)これでソムリエっぽく感想を言えたら“おお”となるのでしょうか、もっばら飲み専門なので、趣味で得た知識は家飲みでこっそり楽しんでいます。

ちなみに、ゴルゴンゾーラと洋ナシは愛称抜群なんだとか!

日々、ゆるーく楽しんでいます!

## 我が家のペット

### ■【ペットの時間】



生産部 設計 森谷 順一

現在ペットは飼っていない。

昔、実家では犬と鳥を飼っていた。鳥はヤマガラという野鳥だった(昔は飼うことができた)。このヤマガラがちょっと面白かった。

鳥かごの上の方の出っ張り(休憩所?)の下にひもを垂らしてその先に空き瓶のキャップを付ける。そのキャップの中にクルミの欠片だのクモだのをいれと出っ張りまでやってきて、足でひもを手繰り寄せてキャップの中のもの食べる、という芸をする。

面白くなって友達が来るたびに芸をやらせていたら、本来小柄なヤマガラが妙に体格が良くなってしまい、気付いた親に怒られた気がする。ヤマガラも逃げてしまったり、猫にやられたりしてその度に新しいのを人に譲ってもらっていた。

何匹目かのヤマガラは全くエサを食べなかった。食べるといっても通じるはずもなく数週間後の朝、冷たくなっていた。悲しいとは思わなかったが、「こんなエサは食べ物ではないから俺は食わないのだ」という意地のようなものを感じた気がする。ただ不味いから食べなかっただけかもしれない。

きっと犬とか猫とかで止めておくのが良いのだろう。

大蛇飼って、自分が飲み込まれるだけなら勝手だが、逃げたりしたら大騒ぎになる。(ヘビ飼っている人いたらすみません。)

もし今後何か飼うとしたら犬だろう、多分。



## チームの名付け親

基幹事業サポート 角田 義秋

野球はプロ野球、高校野球など観ることも好きですが勿論プレーすることも大好きです。前職では会社としてのノンプロ野球のチームがあり都市対抗野球全国優勝最多を誇ります。野球好きの人なら良く知っている会社です。そんな事から社内でも野球が盛んで、製油所内の約30程ある課の中で軟式野球のクラブチームを20チーム程結成して各課対抗のリーグ戦をやっていました。私はユーティリティ関係の職場にいました。課の総員は約60名、チームを結成するために希望を募ったところ、20人程が集まりました。学生時代に野球をやっていた者からボールに触った事はないが、ただ野球が好きならまで種々集まりました。

まず、チーム名を決めようということになり全員で集まり協議の結果、「ドルフィンズ」というチーム名に決まりました。これは私が提案した名前で古い話ですが、丁度この年に沖縄海洋博が開催されそれにちなんでイルカのドルフィンとユーティリティ(動力)のDをとって名付けました。早速会社へ出入りのスポーツ店に来てもらい、ユニフォームを注文しました。出来上がってきたのがブルーに赤と紺のストライプ胸には赤の筆記体でドルフィンズの刺繍、なかなか良い。会社の敷地は周囲13kmあり野球場も2か所あったので、休日や終業時に良く練習しました。練習量のわりにはなかなかチームのレベルが上がらず、20チーム中最下位から2~3番目位の弱小チームでしたが皆楽しく野球をやっていました。休日の練習などは良く息子も連れて行ったものです。そんな万年15位以下の順位が4~5年続きました。ところがこの弱小チームに転機が訪れます。常に優勝戦線にいるチームのエースピッチャーが転課してわがチームに入ったのです。ピッチャーだけ良くてもゲームに勝てる訳ではありませんが、彼が来てから練習にも熱が入りました。それから2年、あの弱小チームが20チームの頂点に立ちました。

勿論会社からは表彰され、担当課長からも金一封が出て課をあげて盛大に祝賀会をしました。その頃の私の打順は5番守備はサード、このポジションが数年続きました。ある時相手のランナー1塁でバッターがセンター前にヒット、1塁ランナーが2塁も踏んで3塁へスライディング、センターからサードに送球、その時センターからの送球をキャッチしてからランナーのスライディングでスパイクされると直感し、ジャンプして着地したところがランナーの左内側の腿、鈍い感触がありました。私のスパイクの爪が突き刺さりました。ゲームは勿論中断しましたが、あの感触は何年経っても忘れられません。

でも野球はやっぱり大好きです。プロ野球や高校野球が楽しみです。

## ◆ちょっと豆知識◆その48 「RPAのこと」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

聞くとところによると世の中にはアルファベットの略語アレルギーの方がいらっしゃることで、そういった方にはタイトルがアレルゲンになってしまって申し訳なく思います。

ここ数年、ビジネス誌などで取り上げられる機会も多くなって「RPA」なる言葉を目にしたことのある方も少なからずいらっしゃるはずで。

RPA。Robotic Process Automation の略で、ロボットが業務プロセスの一部を人間に代わって実施してくれる技術の名称です。「ロボットが」と言っても、Pepper 君が蒸米担いで蔵内を動き回るということではなく、特に日本の場合、そのほとんどは、PC 上の入力操作をソフトウェアロボットが代行してくれるということを差します。

なんでこんなテーマを唐突に出したかという、実は当社で RPA のテストを行っており、その経過を見る中で酒蔵さんの現場でも使える技術なのではないか？と思ったからです。

当社では販売部門、経理部門、生産部門、それぞれ別々の基幹システムが走っていますが、システムでカバーしきれない部分は悲しかな、エクセルベースの帳票類がいまだに中心的な役割を担っています。この手の業務も基幹システムに取り込めないことはないのですが、ご承知のようにシステムのカスタマイズに手を付けると大変な金額が掛かることからこれまで放置されてきた、が実情です。

紙ベースの帳票をエクセルに入力、それをシステムの入力画面にコピペ、あるいはその逆もあります。40 人弱の所帯になるとその業務量はバカならず、この部分を効率化できないかと考えていたところに RPA のトライアル企画を見付け応募。現在総務・営業・生産部門所属の女性社員 3 名で編成したチームが業務の改善を目的に、RPA に取り組んでいます。

蔵内の基幹システムとして、ハートコンピューターさんの「五合」や TSI さんの「酒仙」がほとんどの清酒メーカーさんに入っていると思われます。手書きの帳簿を付けてるところは現在ごくわずかだと願いたいのですが、ちょっとしたデータ類に関しては、いまだにエクセルベースの入力業務が残っていたりするのではないのでしょうか。

当社の取り組みはおよそひと月が経過したところです。「敷居は低い」という触れ込みでしたが実際に扱っているチームメンバーからは賛否様々な意見が出てきています。

業務改善・生産性向上を目的に始めた当社の取り組み。顛末についてはいずれ機会を改めてご報告したいと思います。

清酒メーカー様の帳票管理・入力業務改善のヒントがお示しできることを願いつつ…。

トッセ

## 撮り鉄してみた

生産部 島貴 修一

東北・上越新幹線開通の前年 1981 年に、廃止予定の在来線の特急列車を撮ったことがある。あれから 40 年。再びカメラを向けたのは上越新幹線「とき」。きっかけは望遠ズームレンズを買ったことで、APS-C サイズのカメラに付けると焦点距離が約 1.5 倍になり、重量も手持ちで左右に振り回せる軽さ。これならば列車の撮影に使える。久しぶりに撮り鉄してみよう。

まずは撮影地点探し。パソコンの地図・航空写真とストリートビューで選んだのが、上越新幹線の浦佐駅から東京方向に 1km から 1.5km の辺り。国道 17 号線から並行して走る「とき」が撮れそうだし、新幹線高架の周辺は田んぼで農作業の時期に撮れば季節感も出せる。ということで5月のある日に車で 2 時間かけて行ってみた。

17 号線を走りながら車を止められる空き地を探していたら、無人の建物を見つけた。建物の前に車を止めて裏に回って見たら、浦佐駅まで見通せる絶好の撮影ポイント。更に高架を見ると手前の田んぼで田植え機が動いているではないか。後は「とき」を待つだけ。

スマホで調べた浦佐駅の発車時刻直後に、上りの「とき」がその姿を現した。2 階建ての E4 系だ。案外ゆっくりだなと思いながら見ていたら、ぐんぐん速度を上げて近づいてくる。すぐにカメラを構えファインダーを覗く。列車の動きが速くズームしながら追いかけるのも大変。それでも左から右に疾走する先頭車両をアップにし、その左手前に田植え機を置いた構図でシャッターを押せた。やった！春らしい写真が撮れた。それにしても新幹線は速いな。

E4 系は E7 系と交代して引退する予定だったのに、長野の水害で北陸新幹線に E7 系を持って行かれたため、定年延長して走っている。2 階席からの眺めがすばらしく、いつも沿線の風景を楽しみながら乗っていたが、もうすぐ廃車になる。撮れて良かった。

秋になったら紅葉した八海山を背景に走る「とき」を撮ってみたい。その頃には「とき」は E7 系になっているだろう。